



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2012～13年度テーマ

プロバスだより

第202号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2012年9月13日発行

親睦と奉仕そして前進

編集・発行：情報委員会

－クラブライフを通じて、青春をたぎらせよう－

第 202 回例会

日 時：平成 24 年 8 月 9 日(木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：66 名 出席率 93%

(会員総数 71 名休会 0 名)

1.開会 飯田例会委員長の司会で開会



飯田例会委員長の配布資料の確認後、定時に会食が始まり、会食中に吉田会長から 2 4 件のハッピーコイン（後掲）の披露があった。

2.挨拶 吉田会長



本年度最初の 7 月例会は、各委員長以下皆様のご努力のもと、「楽しい例会」を目指す事ができたのではないかと思います。また、会の運営についても、いろいろ検討をいただきました。その一つ、例会委員会の提案で今月の例会から、卓話を委員会活動報告の前に実施することにしました。会員の方々に落ち着いて聞いて頂けるようにし、卓話を重要な催との位置付けを明確にしました。内容も、本日は 8 月の例会と云う事で、終戦をふり返るにふさわしいお話を渋谷会員にさせていただくことになりました。

次に、7 月例会以後のこの 1 か月間に行なった活動を 2 件、ご報告いたします。

- ① 宇宙の学校後援会の役員会が、7 月 21 日(土) 子ども科学館で行なわれました。宇宙の学校の財政面の支援の役割を果たすわけですが、会員の皆様のご支援を得て、2 年目に入った宇

入った宇宙の学校の事業を、軌道に乗せたいと思います。

- ② 近隣プロバスクラブ、多摩・日野・八王子の 3 クラブの連絡会を 7 月 24 日(火)に聖蹟桜ヶ丘の多摩市関戸公民館で行ないました。3 クラブの交流の足掛かりが出来ました。詳細については、後ほど、交流担当の浅川理事から報告があります。

このように委員長以下、会員の皆様のお陰で、各委員会活動も、順調にその第 1 歩を踏み出せました。

現在ロンドンオリンピックの真最中ですが、絆がメダルや記録につながっていると思います。八王子プロバスクラブでも、絆を育て前進する気持ちを育てたいものです。引き続き、会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

3.バースデーカード贈呈

今年も池田会員手作りのバースデーカードが、



吉田会長より 8 月生まれの 7 名の会員(敬称略)大高、宮崎、八木、阿部和也、山下、竹内、久野(佐々木正は欠席)に手渡された。

4.卓話「8 月に憶う」渋谷 文雄会員



8 月といえば 8 月 15 日の敗戦の日です。私はその時中国の東北地方、満州国の学徒動員先にいましたので、敗戦は 8 月 25 日頃に知りました。その頃には既にソ連兵が侵攻して来ていて、物品の略奪、婦女子を強姦するなど、異国における敗戦国民は哀れでした。私は一日も早く帰国したかったのですが、

ソ連兵の使役に引っ張り出されて帰国できず、彼らの傍若無人なふるまいに対する憎しみは、未だに忘れることはできません。

現在、日本人の中国嫌いは70%位で、中国の日本人嫌いは65%位といわれていますが、日本兵に対する憎しみは未だに色濃く中国に残っています。ソ連兵も酷かったけれど、日本兵は長期にわたり、それに輪をかけて酷かったのです。日本軍は「三光政策」という戦略を使ったのです。中国語では「光」という言葉は尽くすという意味です。今はやりの「月光族」というのは、月給をその月のうちに使い果たす人達を言います。その一は、敵を「殺し尽くす」ということで、軍服を着ていなくても便衣隊として殺戮しました。その二は「奪い尽くす」、糧秣を置いておくと彼らが生き残るから全部奪い取る。その三は、「焼き尽くす」、建屋その他は彼らの隠れ家や根拠地になるので、焼き尽くせという政策です。

数年前に、前の国家主席・江沢民が訪日した時に、日本に対しかなり厳しい要求をしましたが、彼の親族も、彼が十代の時に日本軍に殺されたのです。生き残っている中国の人たちも日本兵に対する「憎しみ」を未だに忘れることはないと思います。

ところがこのような悲惨な戦争の実態を、次の世代に語り継ぐ作業を、私たちはしてこなかったように思います。戦後生まれの人は67歳になるわけで、70歳位までの人は戦争の記憶がないのです。その人たちに対して私たちは戦争の実態と悲劇を具体的に伝承してこなかったのです。私は遅まきながらそのことを勉強する機会を提供しなければならないと思っています。

2年ほど前の8月だったと思いますが、八王子の台町に住んでおられた読売新聞の論説委員・菱山辰一氏、当時40歳位、この人が敗戦の翌日に書いた論説を掲載した新聞を皆さんにお配りしました。この論説は、わずか40歳そこそこの人とは思えない、しっかりとした論調で、これからの日本人はどう生きべきかという道標、かく生きよというような論旨を、8月16日の朝刊に発表したのです。これは今読んでも非常に心打つものがあります。

今日、皆さんにお配りした資料は、「官民の差別」について、なだいなだ氏が怒りの文章を発表した筑摩書房のPR誌「ちくま」の巻頭随筆です。これは数年前に、今は亡き平原元会長が「渋谷さん、戦争してはいけないようなあ」と言って私にくれたコピーを再コピーしたものです。国民に酷いことをした政府が如何に無反省であるか、官民の差別、中国や韓国の被害者に対しても、いかに冷酷か、よくお判り頂けるものと思います。

もう一枚のコピーは、今年の「ちくま」4月号掲載の、なだいなだ氏の巻頭随筆です。今の時代風潮が、昭和維新と言われた頃と似てきた事に対する警句だと思っています。「筑摩」は年12冊1,000円、連絡先は、Tel048-651-0053です。

裏面のコピー「闇に乗じてカムサッカ、オホーツク・・・」云々は、今年の学習サロンでお配りした資料のプロローグをそのまま引っ張ってきたものです。これは明治維新前後に西欧事情を見聞してきた憂国の志士と呼ばれた人たちの時代認識です「坂の上の雲」を夢見た時代でしたが、時代は植民地の独立が始まっており、日本は最後のババを引いて列強からコテンパンにやられたのが太平洋戦争でした。

それから「語りつぐ戦争」、これは3月20日、朝日の朝刊に載っていたもので「叔父が語った南京自慢話」ですが、河村名古屋市長が姉妹都市を結んでいる南京から来た親善使節団を迎えるパーティの席上で、「南京事件などなかった」と言い放ったことを聞いて驚いた方の投書です。あまりにも無知にして無神経でありますから、両市の関係は、名古屋市長から詫びを入れない限り、今後の親善は進まないと思います。

「語りつぐ戦争」へはいろいろの人が投書していて、171通が収録された「戦争体験」という文庫になって、朝日新聞から7月30日に出版されています(¥630)。ぜひ読んで頂いて、日本がどのような戦争をやってきたかを、具体的に勉強して欲しいと願っています。

「ご紹介したい文庫本」というのが5冊あります。「南京事件」(岩波新書)は事件を極めて客観的に、むしろ学術的に調べたものの記録で、南京事件の内容をほぼ限なく論証しています。次の

「日本の国境問題」(ちくま新書)は、今の尖閣諸島の問題、北方四島の問題、韓国との竹島問題、など、日本が現在国境でもめている問題を全部客観的に取り上げて、その経緯を細かく書いています。これも是非みなさんに読んで頂きたい本です。3冊目は「戦争体験の戦後史」(中公新書)ですが、学生運動の見方とか、「きけわだつみのこえ」を中心にその戦後史を詳しく述べている本で、学生運動に関わった方には興味あると思いますが、全体的に見て是非にという本ではありません。次に「昭和天皇の戦後史」(岩波新書)ですが、戦後、天皇に戦争責任があるか、ないか、といろいろ議論がありましたが、とんでもない、戦争責任など天皇にあるはずがない、あれは東條がやったのだとか、いろいろ論議があります。やっぱり、決裁したのは社長であつたらその責任を取るわけですから、そうした視点からこの問題を考えなければいけないのではないかと思います。いろいろな視点でこの問題が書かれていますから、是非この本を読んでいただきたいと思います。そして、もう少し読書に興味がある方は、5冊目の「戦争絶滅へ・人間復活へ」(岩波新書)を合わせお読みになると大変勉強になると思います。特にお勧めするのは「南京事件」、次いで「日本の国境問題」そして「昭和天皇の戦後史」です。以上で配布した資料の説明を終わります。

それから、日本人の反省が非常に少ないことを強調した次の記事を紹介したいと思います。

例えば、「青年時代」という新聞折り込みの8月上旬号には、こうしたヒドイことをしてきたことに対し日本人の反省が非常に少ないのです。

1946年のある日、14歳の中学生が登校中に経験した話です。「私は埼玉県桶川駅から高崎線で通学していました。列車はいつも混雑していて窓から乗り降りするのが当たり前でした。そんなある日、列車の中で中国から帰還した数人の兵隊さんの会話を耳にしました。“戦争はよかと。若い女を棒につるしてなあ、鼻から水を入れると苦しみ悶えるんや”“その後どないした”“後はこちらのいいなりよ。裸にして”“それからどうした”“命だけは助けてっていうから助けてやった”“殺したんじゃね一の。お前さんはうまいことやったあ”。彼

らはここに書けない下品な言葉を口にして皆でゲラゲラ笑っていました。私はそれを聞いてショックを受けました。戦争中多くの残虐行為が行われましたが、人間が悪いのではない、戦争が悪いのだということを何百回も聞かされてきました。しかしあれから66年、私はそうは思いません。人間は腹が減れば人肉を食べることさえあるのです。時によっては女の人を平気で犯すのです。人間にそのような罪を犯させないためにも、戦争をやってはいけないのです」。現在80歳のおばさんの投書です。今申し上げたようなことで、戦争に対する日本人の反省は中途半端です。私のこれからの生きる道は、度々申し上げてきましたが、反戦・平和、再び戦争はやってはいけない、平和憲法を守る、これに最後まで、死に至るまで徹して生きてまいりたいと思っています。この間、吉田会長はサミュエル・ウルマンの青春とはなんだ、という書いたものをお配りして頂きましたが、少なくとも人間の生き様としては、とことん平和に徹する、戦争を繰り返してはいけない、このことだけは、皆さんと共にこの8月を迎えて、思いを新たにしないでほしいと思います。

私は日本国の憲法を常時カバンに入れていません。憲法は全部で11章から成っていて条文としては130条になります。第1章「天皇」は8条で構成されています。第2章は「戦争の放棄」で一つの条文だけで構成されています。第3章は「国民の権利及び義務」と続きます。

第2章の「戦争の放棄」第9条は条文が一つの追い書きとなっています。読んでみます。

第9条

- 1.日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- 2.前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

これが第9条の全文で、その次は第3章に入っていきます。この第9条の戦争の放棄という条文は、世界中で最も誇り得る条文であろうと思って

います。

8月15日が間もなくやって来るのですが、その平和への誓いを新たにする日として、この日を迎えたものだと思います。私は敗戦の時、学徒動員で満州の地方の山岳地帯に居り、天皇の敗戦の詔勅を聞いておりません。そんな話をしたところ、久野会員が、各大臣の裏書サインした終戦の詔勅のコピーを、わざわざ待ってきてくださいました。と同時に、その日の放送を収録したCDも頂きました。本来なら、今日これを全部の人に聞いてもらって、新たに人生の門出を誓ってもらおうというぐらいの気持ちがあったのですが、指定された時間が、あと3分位しかありません。少し端折って終わりたいと思います。有難うございました。

5. 幹事報告 塩澤幹事



日野、多摩、八王子3プロバスクラブの交流会がもたれ、大変有意義な会でした。早速ゴルフでの交流の話が出て、これからますます発展していくと思います。

理事会で、卓話をより充実させることになり、幹事報告の前の30分を当てることになりました。卓話の時間管理の為「5分前」「まもなく終了」のカードを準備し幹事がこれを示すことになりました。

理事会で野外サロンについて、“被災地はその後どうなっている”という観点から考えたかどうかという話が出ています。

同好会がいろいろあり、スケジュールが重なり参加できないケースもあり、同好会活動の実態を調査しました。ご協力ありがとうございました。

6. 各委員会報告

(1) 例会委員会 飯田委員長

総数 71 名、出席者 66 名 出席率 93%

(2) 情報委員会 寺田委員長



先月の200号記念寄稿では、大野聖二会員、立川会員、大野幸二会員、濱野会員、岡田会員の5人から寄稿をいただき、今月の201号では、古川会員、小林貞夫会員の2

人から寄稿を頂き、記念寄稿は終了です。寄稿を頂いた皆様ありがとうございました。

今年度は投稿文や同好会活動などの投稿を増やそうということで、お茶の会、美術鑑賞の会、俳句同好会から投稿を頂きました。また戦後復興期の欧米視察旅行の思い出を書いた土井俊雄会員の投稿文もあります。読みでありますが懐かしいものです。ぜひお読み下さい。

現在投稿文や、つぶやきの在庫がほとんどありません。取材班からお願いが行くと思いますのでご協力願います。

(3) 会員委員会 橋本晴重郎委員長

特になし

(4) 研修委員会 土井俊雄委員長



野外研修については、回を重ねるごとに、何処にしたらいいか大変難しかったが、3案を提出しました。その中の一つは日帰りコース

で北関東、北茨城から一寸いわき市に入った所、今細かく検討中です。もう一つは被災地へ行ってありのままを目の当たりに見る、そして何かできること、たとえお土産ひとつでも、あるいは食事をするなど、これを推す声が高かったです。いずれにせよ、今詰めており、あまり無理のないものにしたいと思っています。

卓話については、できるだけ全員が平等に分かち合う形でお話を頂きたいと思い、お願いしているところでほぼ固まりかけています。

同好会については、全部整理して、原則として年間どのくらいか、どういうテーマで行っているか、何曜日を使っているか、など今整理中です。間もなく出来上がります。

(5) 地域奉仕委員会 橋本鋼二委員長



先月(7月)例会で「サロンについてアンケート」を配り、今日回収ということですが、かなりの方からご協力を頂いたのですが、書きたいけれど紙を忘れたとか、書いたけれど忘れ

た方もおられると思いますが、予備の紙を持っていますので手を挙げてくだされば、今お届けします（数名の方が挙手）。今まで出た範囲では、大変いいご提案があり、前途に希望を持ちつつあります。更にご協力をお願いします。

(6) 交流担当 浅川理事



従来、交流は行事にお互いにご列席をお願いするという事で、代表が何人かで参加する程度のもので、これではさびしいということで、従来のやり方はそのまま進めるがその他どういう方法があるのか話し合うため、日野、多摩、八王子の3プロバスの会長、幹事、交流担当が、7月24日（火）、多摩市関戸公民館で打ち合わせを行いました。

我々は、当クラブの研修委員会が持っている卓話の貴重な資料を持参し、こういうことをやっていると披露しました。この件でわが研修委員会と話をしたら、この話に乗りたい、卓話のスケジュールの中に入れていきたいとのことです。

更に今すぐできる交流として同好会の交流の話になったので、当クラブのゴルフと囲碁の幹事に話をしたら、是非乗っていききたいということになり、準備を進めています。

これを進めるにあたっては、さらに交流担当が話し合う必要ありということで、今月（8月）28日に次の連絡会を予定しています。その他の交流方法のご提案があれば是非こちらのほうへご連絡ください。

立川会員（全日本副会長）



全日本から報告します。今年のサロンの報告書を全日本事務局へ送付しておいたところ、幹事長から電話があり、その中の岩島会員の書いた水の話が非常にいい話なので、全国に配信したいと依頼がありました。ご本人に了解を頂きまして、全文が全日本の67クラブに配信されました。大変うれしいことなので、今後このようなものがあればどしどし取り上げてくださいと申し上げておきました。

7. 「宇宙の学校」報告 澤渡事務局長



八王子「宇宙の学校」開校まで余すところ2ヶ月になりますので、現在までの進捗状況について報告します。既に日程などの開催内容

については、書類でご案内していますが、今年度は2会場、120組240名に増やして行います。それではこれまでの進捗状況ほか報告します。

1. 新たに企画した桑志高校との取組について

桑志高校との関係は、監督・指導・財政支援など幹となる部分は実行委員会運営本部が担当しますが、実際のオペレーションは校長をトップとした学校側の自主運営とします。今回はテスト的に地域学校間連携という考え方で、募集も近隣の第5小学校を中心に考えています。又、子供たちの世話役、アシスタント・スタッフも高校生に任せます。一方足らざるところを本部スタッフが援助したいと考え、5月から月1回のペースで連絡協議会をもってフォローしています。従って桑志高校については全体運営、受付業務など、若干の支援が必要になりますが、プロバスのスタッフの皆様には昨年同様、教育センター会場でのご協力をお願いすることになると考えます。

なお、改めて9月例会でお願いしますが、10月7日（日）の桑志高校開校式には的川先生の特別講義もあり、プロバスの多くの会員の皆様の会場に足を運んで頂き、高校側にもプロバスの熱意を伝えて頂ければ有難いと思います。10月7日午前中のご予定、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2. プロバス会員の「宇宙の学校」支援の会支援状況について

7月例会で支援の会を通し財政面と労力面の支援をお願いしました。先ず、労力支援については運営本部員として30名。皆様にご協力頂けることになりました。本当にありがとうございました。

次に財政支援については出来れば本日、遅くとも9月例会日までにご登録のほど、お願い申し上げます。昨年度は66名の皆様に登録頂きましたが、今年も昨年以上のご支援が頂けますよう、重

ねてお願い申し上げます。

3.各団体からの協力状況

ボランティア・スタッフとして市内の団体に幅広く協力をお願いしているが、今年度は昨年協力いただいたスコーレ協会のお母さん達、拓殖大学及び桑志高校の学生達に加えて、同じく東京工科大学の学生 10 名程が参加してくれることになりました。プロバスの皆様の体力負担軽減に力強い味方が加わってくれることと思います。

4.プロバスの皆様へ改めてお願い

前年度は準備不足もあり、プロバス会員へのインフォメーションが足らなかったと反省していますが、今年度は全員の皆様にどこかの会場に足を運んで頂き、地域奉仕事業の一環として行っている八王子「宇宙の学校」を皆様の目で見て頂き、応援して頂きたいと切望しています。実施要領については9月例会で改めてご案内しますのでよろしくお願いいたします。

9. 同好会報告

ゴルフ同好会：米林会員

今年度初のコンペを9月20日相武カントリーで開催します。現在12名の参加申し込みがありますが、若干余裕があるので同好会メンバー以外の方でも結構ですので是非ご参加ください。本日が締め切りです。

歴史の会：土井俊雄会員

10月位に会を催したいと思います。大変楽しい一日を過ごせるプランを、ある方から頂いています。確定したら連絡いたします。

麻雀同好会 矢崎会員

今月はお盆休みで会はありません。

俳句の会 河合会員

お蔭さまで、7名でスタートし7月から1名加わって頂きました。1年たちました。作品はプロバスだよりで紹介していきたいと考えています。ご興味のある方は是非ご参加下さい。

旅行会 立川会員

モンゴルへの旅、いよいよ8/20出発です。8/17(金)11:30ランチミーティングをアンシャンテで行います。Q&Aを行うので参加者はお集まりください。

シニアダンディーズ

コーラスの出前演奏ですが、8月に大きなシルバービレッジ八王子ができお呼びがかかりました。9/26(水)午後お伺いします。入居者が150名です。二部公演で行います。そのうちサークルとして登録するのでよろしくお願いします。

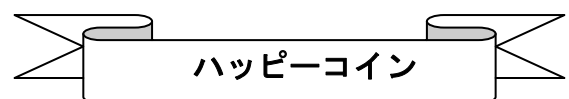
9.その他

例会委員長よりの提案で、15分間、本日の卓話について、テーブルごとに話し合った。

10. プロバスソング斉唱

11. 閉会の挨拶 荒副会長

つい最近、チベットのラサに行ってきました。そういう国があるということ、皆さん、記憶に残しておいて下さい。非常に懲りたのです。非常に高い岩裾にあり、そこで一番何に参ったかという、歩くことが大変でした。標高がとても高いものですから、ラサの山頂は3,600mで富士山の8合目か9合目の所です。ですからセーターを2枚くらい着ると酸素がづらいところを歩くのに丁度いいです。ところが地元の人たちは、やはりさっさと歩いています。ですから、相当心臓がおかしくなって肥大しそうになります。平均寿命が35歳くらいで、非常に厳しいところで働いている大変な所です。そういう所で必死になって生きている国があることを、ちょっと記憶していただけたらと思います。ではこれにて閉会といたします。



◆チベットの西寧(せいねい)から拉薩(らさ)まで標高5,000mを超える大草原を青蔵(せいぞう)鉄道で走りました。 荒 正勝

◆旅のサークルのモンゴル行も後10日になりました。故 元幹事・桂元二氏のモンゴル魂を注がれた想いと一緒に14名元気に行ってきます。お土産話を楽しみにしてください。 立川 富美代
◆中国・北京にて釣魚台(ちょうぎょだい)迎賓館にて接待を受け、人民大会堂にて建軍85周年記念のレセプションに招待された。ハッピー！

渋谷 文雄

◆先月の例会の時は鼻の手術のため全身麻酔で遠い夢の国にいました。無事生還でき例会に出席できてよかったと思います。後は少しずつ体力を挽回し元に戻る事です。 有泉 裕子

◆8月7日は私の82歳の誕生日。今日も何とか生きています。 山下 安雄

◆高齢者の健康。二日間の入院もオール検査合格。うれしい！ 塩澤 迪夫

◆先月、自動車運転免許更新のための高齢者講習を受け、記憶力、判断力共に満点の評価を受けてきました。 杉山 友一

◆8月17日、76回目の誕生日を迎える。健康に感謝。モンゴル旅行の無事を祈る。 宮崎 浩平

◆7月25日、男の孫、誕生。後継ぎができ Happy です。 野口 浩平

◆今年も健康で誕生日を迎えられました。生かされていることに感謝です。 大高 秀夫

◆8月5日、80回目の誕生日を迎えました。 竹内 賢治

◆8月15日は盂蘭盆（うらぼん）で弟3人と私の4人兄弟で両親の墓参りに行きます。その後のお浄め...お食事（勿論アルコール共）そしてオシャレがとても楽しみです。 阿部 幸子

◆浅間神社の例祭が無事に終わり責任者としての役割を果たしました。 鈴木 弘昭

◆新病院の竣工、地域に密着した救急病院。9月1日開院。9月3日外来オープンにこぎつけました。8月19日は内覧会もごさいます。お出かけくださいませ。 根本 洋子

◆8月4日、八王子祭りに友人を3人案内した。皆さん感激しておりました。 増田 由明

◆①今月、8月9日は殊更うれしい例会日です。〈ヘッセ忌や 青春の日々 還り来ぬ〉

②8月下旬、韓国の「慶州ナザレ園」（残留日本老婦人収容施設）に慰問演奏に行くことになりました。 山形 忠顕

◆大中恩（めぐみ）さん（作曲家）88歳の記念演奏会。紀尾井ホールで聴きました。元気に指揮とお話をされて、元気づけられました。

武田洋一郎

◆8月2日～6日、八王子市平和展が実施されました。実行委員と「戦時下の小学生」の語りを担

当し、プロバスの皆様にご参加いただくことができました。有難うございました。 廣瀬 智子

◆蝉が夏をうたっています。こうした自然を子供たちにも残したいものです。「蝉しぐれ 抜けてまぶしき 里小道」 河合 和郎

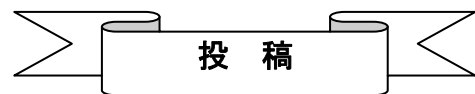
◆オリンピック女子の活躍にバンザーイ！！たくさんの感動をありがとう！！残すはなでしこの活躍に期待しています。 飯田富美子

◆日本選手のオリンピックでの活躍、嬉しくなりました。アメリカの孫と娘が帰国し、1年ぶりに会えました。この今が幸せです。 土井 俊雄

◆毎晩寝不足したような気がするが、ニッポンがオリンピックで金、銀、銅のメダルを取り日の丸が上がることは、ハッピーである。 荻島 靖久

◆7月、ヒッグス粒子の発見のニュースが駆け巡りました。日本の科学者も貢献しています。今オリンピックの最中ですが、科学オリンピックでも金メダルを！ 下山 邦夫

◆会員の皆様のお蔭で、本年度のプロバスクラブの活動、無事スタートできました。 吉田 信夫



ふくしま復興支援ツアー

橋本 晴重郎



平成23年の3月11日、東日本大震災に際して、私が連合会長を務めていた八王子市老人クラブ連合会はいち早く募金活動に取り組み、5月16日までに515万6953円の義捐金を被災者に贈りました。しかし、

現地へ行つての肉体的ボランティアは無理なため、被災地を訪問することをためらっていましたが、最近になって被災地のうちでも福島県は放射能被害のため観光客が激減し、そのため経済的復興が他県に比して著しく遅れていることを知りました。先日の天皇皇后両陛下のご訪問、ブータン国王・同妃殿下の慰問などは風評被害を払拭する心配りであったとの情報もあり、単なる物見遊山ではなく福島県の復興支援のために福島を訪問したいと計画していましたが、本年6月、八王

子市老人クラブ連合会賛助会員の旅行業者から助成金を利用しての復興支援ツアーの提案があり、7月25・26日に大型バス1台で福島の被災地を訪問しました。



最初の訪問先は相馬市の松川浦尾浜地区。5月11日天皇皇后両陛下が被災地を慰問された際、亡くなった被災者を悼んで黙礼された場所で我々も黙とうを捧げました。この一帯は約270戸の漁師まちだったようですが1戸の民家もなく基礎のみが夏草に覆われていました。



地元被災者の説明によると海岸から数百メートル離れた小高い丘に住民は逃げましたが高い方の丘に逃げた人は助かり、低い丘に逃げた人は津波に巻き込まれて遭難されたそうです。説明者は助けを求めながら津波に飲み込まれて逝く人々の声が今でも忘れられないと涙を浮かべておられました。



相馬漁港の魚市場は廃墟となり、柱のみのこした1階のせり市場は人影もなくならん堂でしたがその付近には瓦礫が山をなしており、自治体が処分を引き受けてくれるのを待っていました。この瓦礫の処分も東京都は石原知事がいち早く受け入れを決定したものの、多くの自治体では放射能懸念から受け入れを拒んでおり、現地では瓦礫の処理ができなければ復旧作業は進まない現状にあることを理解しない身勝手な自治体が多いことには失望を禁じ得ません。

その夜は、磐梯スカイラインの野地温泉ホテルに宿泊しましたが、標高1,200mの涼しい環境にもかかわらず宿泊客はまばらで閑散としていました。宿の説明によると例年訪れていた修学旅行は100%キャンセルされ、1年4ヶ月たった今も回復していない、とのことでまさに放射能風評被害者でした。少年期の生徒を預かる教育関係者や

保護者は子供の将来への影響を考えると神経質になることは理解できますが安全宣言されてもさらに忌避されては地元の復興は望めません。

翌26日は南福島のいわき市塩屋岬地区と小名浜港を訪れました。美空ひばりの曲で有名な塩屋の岬は高さ30mほどの小山の上に灯台が聳えています。地震による被害のため現在は立ち入り禁止です。津波はこの小山にぶつかり中腹にまで達したそうですがこの麓にある美空ひばりの記念碑と道路一つ隔てた山六物産（土産物店）は奇跡的に助かりました。この岬の小山が防波堤になってくれたのでしょう。



山六物産の社長が展示された当時の写真を使って我々に状況説明してくれました。亡くなった遭難者の多くは両手に荷物を持っており波

にのまれたときに掴まることができなかった人だそうで、津波の避難にあたっては片手を開けて何かにつかまることが重要との教訓を教えてくださいました。

小名浜漁港の岸壁は当時の面影は全く無く、せり市場をはじめ漁業関係施設は壊滅状態でしたが「小名浜魚市場観光物産センター」は再建されて営業を再開していました。我々はここでできるだけ海産物の土産を買って復興支援することにしましたが、センター内の客足はまばらで活気を呈しているという状況にはありませんでした。

被災から1年4ヶ月、仮設住宅や借り上げアパートに身を寄せながら不自由な生活に耐えておられる被災者にもお目にかかって激励の言葉をかけたいと思いましたが時間の関係もあり今回は果たせませんでした。我々が訪れた被災地はいずれも漁師をはじめ漁業関係者が被災者でしたが、家や船を失ったうえ放射能という人災まで加わって生活の基盤を奪われこれからの人生をどう立て直すのか、その心情を思うと国をあげて支援に努めなければならないと痛感致しました。

天空への切符



チベットのセイネイで、タール寺の大マンダラが山の上から静かに開帳されるのを見た。チベット族の老人達が正装してマンダラに手を合わせる。

マンダラの下道路は、各地から集まった信者や観光客などで埋まっている。厳重な警備体制。ここはすでにチベットだった。

午後、青海省のセイネイからラサまで、ひたすら大草原を走る青蔵鉄道に乗る。その距離 1,956 km。時速 80 kmほど、時間にしておよそ一昼夜。途中停車駅はゴルムドとナクチュのみ。



切符は一人 770 元、日本円にしておよそ 9,000 円余り、一等寝台四人一室利用、乗り組んだのは、旅慣れた老いぼれ 2 人と、中年男の 2 人。草原や菜の花畑が現れては消えて行く。……やがて地平線に青海湖が現れ、やがて過ぎ去る。褐色の大地を激流が削り取った河川が次々と現れては消え去っていく。

青蔵鉄道ラサ行き

この鉄道のウリは世界一標高の高いところを走るの、鉄道マニア垂涎の路線。出発点のセイネイが 2,275m、最高地点がトコラの 5,072m、終点のラサが 3,640m。客車内に酸素を吸引するパイプが付いている。

車窓から見る山々はそれほど高くは見えないが、雪をまとった小山も、線路の標高を加えれば、6,000mを越える山を見ていることになる。

草原には放牧された羊やヤクが悠然と、また点、点と草を食む。その辺りを、長毛を垂らした褐色の大型犬がうろつき、牧人はじっと立ち止まって

いる。

ここには太古の時間が流れているようだ。この光景を見たさに青蔵鉄道に乗る人が多いという。同じような光景を何枚も何枚も写真に収めている。

通路側の景色が見ごたえあると誘ってくる。どれどれと覗きに出掛け、退屈しのぎにお喋りをする。次から次へと同じ様な光景が続く。少しは変化があってもよさそうなものだが。同じような光景が繰り返される。やがて無関心になり、無言で席に戻る。

道路が並行して 1 本ある。たまにトラックが走っている。それに感激したりする。草原から荒地に変化し、また荒地から草原に替わる。

たまにチベットの集落をみる。あれがタルチョか！五色の三角旗がはためき、経文が風に乗る。

それらを飽きずに眺めつづける人。みな後期高齢者のようだ。

ゴルムド駅

誰かに起こされる。深夜 1 時、ゴルムド駅に到着。先頭に機関車を 1 台連結する作業で、20 分程停車するとのこと。

鉄道マニアにつづいて先頭車両までホームを小走りに走る。わたしも遂に鉄道ファンに変身。老いぼれが息をきらせてたどりつけば、機関車は極普通形、がっしりした実用本位の車体だった。これに牽引されてはるばる来たのだと何やら感動する。

撮影が済むとまた小走りに 11 号車まで戻る。この鉄道では、発車のベルを鳴らすことも無く突然発車してしまうとのこと、気がきではなかったが、小柄な女車掌さんがドアを開けて待っていてくれた。謝！謝！

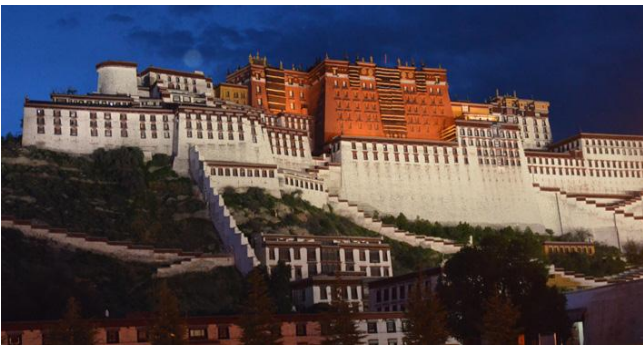
朝 9 時 7 分、標高 5,072m 鉄道世界最高地点の碑を見ながら通過。車内表示板には標高 5,081m と測定値が出た、誤差があるのだろう。客車内にかすかなどよめき！外気を取り入れている訳ではないので、高山病になる訳はないが、身が軽くなったような気がした。タングラ駅通過、標高 5,072m と表示があった。ここからは、ゆっくり下り続けて、午後 3 時ごろラサに到着。標高 3,600 m、富士山の 9 合目に相当する天空の都市だ。

翌朝、わずかに頭痛は有るものの、高山病ではなさそう。しかしポタラ宮の石段を 5～6 段登ったところで、息が切れた。その苦しさは富士山を登る時と同じだった。

そこで悟る、この町に住むことの出来るのは、このような高地で生れた人でなければ不可能だと。聞けばチベット人は心臓が大きく、全身に大量の血液を送り込んでいるという。代わりに心臓病が多く短命で、昔は平均寿命が 35 歳だったとのこと。

平らな道でも、ゆっくりゆっくり、呼吸を整えながら歩くのが理にかなっているという。酸素はこんなに重要なのか。ところで、後で知ったことだが、年取った叔母様方が 3 名ほど、ホテルに留まっていたとの事。自信があまりで、高山病の薬を準備していなかったとの噂話。

ポタラ宮見学



宮殿内部は、部屋が幾つも、丘の斜面に沿って積み重ねられて居り、床から壁面、柱から天井まで、贅を尽くした装飾が施され、天上世界を荘厳にしておりました。その様な部屋の幾つかを決められたコースに沿って、1 時間以内厳守の見学時間に追われ、仏間の観音さまに手を合わせる間もなく、宮殿外へ押し出されてしまった。それでポタラ宮の写真集を買って心を癒しました。

この季節、ラサには観光客が殺到して、入場券は何倍にもプレミアムが付き値上がりしている様子で、見学出来ただけでも幸運だったと後で知りました。

夕刻、ポタラ宮がライトアップされるとのことで、見物に出掛け、丘の上に輝く秘境の宮殿を撮影しました。この美しい光景は厳しい歴史を刻んでいるだけに、強く心に焼きついた。

俳句同好会便り

河合 和郎

私の一句～8月の句会から



残暑厳しい中、7 人のメンバーが集まり、にぎやかな句会が開かれた。8 月の兼題は「花火」。以下メンバーの「私の一句」を紹介する。

大輪の音 ゆっくりと 遠花火 渋谷 文雄
光よりも音の遅れて届く遠花火の様子がうまく詠われている。「大輪の音ゆっくりと」の措辞がゆったりと大らかである。

鉢植えの 初茄子炒め 舌鼓 東山 榮
作者は鉢植え野菜の栽培に励んでいるという。楊句からは収穫の喜びが伝わってくる。身の回りの日常を詠んで秀。

利休下駄 踊りつかれて 遠囃子 田中 信昭
二回目の参加で今日の最高点句。踊り疲れて家路を辿る。そんな背中にお囃子の音が迫ってくる。風情のある一句。

かちわりや 夢と熱気の 甲子園 馬場 征彦
句会のあった 8 月 8 日は甲子園大会の初日。甲子園名物の「かちわり」をいかして、時の話題をうまく詠んでいる。

手花火や はしゃぎし子らの 声弾け
飯田 富美子

花火に打ち興じる子供達の様子がかわいらしくまとめられている。昨今は住まいの環境が変わり、こうした光景が見られなくなった。懐かしの一句。

朝市や 輝き見せて 茄子トマト 阿部 治子
「輝き見せて」の措辞に、採れたての新鮮な野菜が並ぶ。活気溢れる朝市の様子がうまく詠われている。

昼花火 おれもおれもと 腕白連 山形 忠顕
わんぱく盛りの男の子たちが花火に興じている。大きな音のする花火かもしれない。そんな子供たちをやさしく見守る作者の目がある。

線香花火 小さき闇の やさしかり 河合 和郎

編集後記：久し振りに編集をしたが、新しいパソコン Windows7 だったので、ツールの場所が分からず右往左往した。何とか乗り越えたので、ホッと一息ついている。矢崎